

# こんにちは 牛越です

【第159回】

コロナ後、初の師走



大町市長 牛越徹

新型コロナウイルス感染症は、国内では令和2年2月以降、約3年4カ月もの長期にわたり蔓延しましたが、今年5月、感染症法上の位置付けが変わり、さまざまな制限が解除されて日常の社会経済活動が再開しました。ようやくコロナ禍を乗り越え、制約の少ない落ち着いた中で師走を迎えました。

年末を迎え、この3年余りを、広報の「こんにちは牛越です」の記事で振り返ってみますと、最初に新型コロナウイルスの名前が載ったのは、令和2年3月号でしたが、翌4月号では、拡大の一途をたどる様子が、また、5月号では全国一斉に緊急事態宣言が発せられ、市でも対策本部を設置し、対策に全力を挙げて取り組む決意が書かれています。

令和3年に入りワクチンの供給が始まり、大町市では3月にワクチン接種に向けて準備チームが発足し、県下でも早い自治体として、医師会、歯科医師会、薬剤師会などのご協力により、中央保健センターの集団接種のほか、市内の医院など大町病院で開始しました。しかし、何回もの感染の波が襲いかかり多くの方が感染し、また尊い命が失われました。

この間、最前線で発熱患者の診療とワクチン接種に当たっていただきました。開業医ならびに八坂・美麻診療所の先生方、また、圏域内唯一の感染症指定病院として治療に力を尽くしていただいた大町病院の医師、看護師をはじめ職員の間々さま、発熱患者の救急搬送に当たっていただいた救急隊の皆さまに、改めて深く

感謝申し上げます。

また、さまざまな制約の中で、社会的な機能を支えていただいた介護・福祉施設、学校や幼稚園、保育園などの施設や経済活動を支えていただきました商工業や建設業、飲食・宿泊業やバス、タクシーなどの交通・運輸事業の皆さまはじめ多くの皆さまに、市民の暮らしと地域経済を支えていただきました。市でも「新型コロナウイルス克服戦略おまち再生プラン」を策定し、市民生活の底支えと地域経済への支援に、国、県の支援策を活用して全力を尽くしてまいりました。

コロナ禍を乗り越えることができましたのは、市民の皆さまのご協力のおかげです。感染拡大の当初からマスクの徹底など感染防止に率先して取り組んでいただき、さらにワクチンの接種にもご理解いただき、積極的に接種を受けていただきました。心から感謝申し上げます。

一方、この秋、季節性のインフルエンザは例年になく早くから流行が始まり、また、新型コロナウイルスは根絶してはならず、高齢者や基礎疾患がある方の重症化がなお心配されます。本格的な冬に向け、必要に応じマスク着用や室内の換気など、適切な予防策を取っていただきたいと思います。

来年は市制70周年の記念の年であり、黒部宇奈月キャニオンルートの開通や第3回北アルプス国際芸術祭が予定されます。来年こそ、市民の皆さまにとりまして、いっそう明るく穏やかな年となりませうとお祈り申し上げます。